

アルプス(ALPS)処理水海洋放出反対

署名(オンライン&署名用紙) 推進ニュース

みやぎ生協・コープふくしま

推進事務局 情報発信チーム

発行日 2022/4/27

No. 37

賛同署名総数は 4/26まで	195,679	筆 筆 筆
*オンライン署名	6,161	
*署名用紙署名	189,518	

<https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm>

オンライン署名は右QRコードで直接 署名サイトへアクセスできます。
★オンライン署名と併せ署名用紙での署名も行っています。
HPまたは事務局へお問い合わせ願います。



みやぎ生協・コープふくしまは
東京電力福島第一原発事故におけるアルプス処理水の
海洋放出に反対です。反対署名運動へのご協力をお願いします。



生協労連 柳恵美子執行委員長

全国生協労働組合連合会(生協労連)「福島第一原発事故から10年のいまを学ぶ」
のオンライン学習会が4月23日に開催されました。
参加のみなさまへ署名推進事務局長の野中俊吉 みやぎ生協 ふくしま県本部長から
署名提出の報告とともに感謝と御礼のメッセージを送りましたので皆様にも紹介します。



生協労連 渡邊一博 副委員長



スマホはこちらから

野中 俊吉 本部長メッセージ



ご参加の皆様へ ~◆東京電力と経済産業省に 要請してきました。
私たち署名呼びかけ4団体と岩手県生協連は去る3月30日、皆様から寄せられた179,093筆の署名を携え、東京電力本社と政府経済産業省に
要請に行ってきました。要請行動を通して、宮城県漁協さんと生協が呼びかけ団体となって進めた署名活動は東電と政府に大きなインパクトを与えた
と感じました。要請行動の様子を報告させていただき、現時点でのALPS処理水扱いをめぐる問題の私なりの論点をお伝えさせていただきます。

1. 提出した署名合計数は179,093筆です。力持ちの生協や団体・個人の貢献度が高いことはもちろんですが、コロナ大流行にも関わらずこんなに集まってうれしいという実感
です。内訳は手書きの署名が17万3千余り、オンライン署名が約6,000となっています。オンライン署名はPCやスマホの操作がネックとなり当初描いたような数にはいたりません
でしたが、新たな取り組み手法としては今後に生かせるとの感触を持ちました。また返信用封筒付きの郵便署名は福島県と宮城県他いくつかの県で扱っていただき1万6千筆以
上集まりました。この郵便署名はコロナ流行の下でも署名数が稼げる有効な方法だと実感しました。



東京電力本社と政府経済産業省に

2. 続いて、東京電力本社と経済産業省への要請行動の様子についての報告です。
要請行動に先駆けて、東電と経産省に同じ質問書を出しておきました。要請の際、質問書に対する回答をもらい、その回答にたいしても
いくつかの問答を行いました。

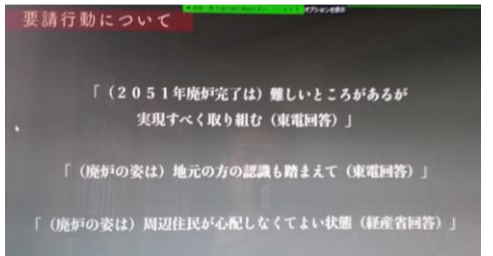
①まずは、2015年に政府と東電ともに福島県漁連に文書で回答した「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わず、多核種除去設備で処理した水は発電所敷地内のタンク
に貯留いたします。」とした約束は現在も有効か否かと事前質問しました。これについては東電も経産省も今も有効だと回答してきました。一方、有効といいつつ昨年4月13
日のALPS処理水海洋放出方針を改めるとは言わずに、ご理解いただけるよう丁寧な説明を何度でも行う考えと発言し、あくまでも海洋放出を進める姿勢は崩しませんでした。

②二つ目の質問は、昨年4月13日の海洋放出方針に書かれている「福島第一原発では、安定状態を維持管理した上で、燃料デブリの取り出し方法が具体
化されるなど、廃炉作業が着実に進展している」と記載されているが、燃料デブリは現在耳かき一杯分さえ取り出せていないと聞くと、(タンクがあるために)
原子炉から溶け落ちた燃料デブリの置き場に困るような状態には至っていないのではないかと質問しました。これに対しては「政府の基本方針に記載の通り、
日々発生する処理水をためるタンクが敷地を大きく占有する現状は、廃炉作業の大きな支障となる虞(おそれ)があり、当社としてもその在り方は見直す必要
があると考えております(東電回答)」と、政府方針への質問に対して何を忖度したのか東電が回答しています。そもそも2015年に福島県漁連と約束した時
点で、汚染水の日量を計算すれば、タンクがいつどの程度必要になるかわかっていたはずですがこの有様です。



一方、有効といいつつも

③三つ目の質問、政府の廃炉計画によれば、遅くとも2051年に廃炉完了とされているが・・・廃炉計画は実現可能か? 加えて 四つ
目の質問、ALPS小委員会(事務局)の経産省は、現在の法規定では廃炉は更地にすることだから廃炉完了のためにタンクを処分
しなければならないと説明されたようですが、廃炉の姿(完了した姿)は更地にするという理解でよろしいですか?との廃炉の時期と廃炉
が完了した状態についての質問には、「(2051年廃炉完了は)難しいところがあるが実現すべく取り組む(東電回答)」「(廃炉の姿は)
地元の方の認識も踏まえて(東電回答)」「(廃炉の姿は)周辺住民が心配しなくてよい状態(経産省回答)」などと、廃炉完了の時期と
廃炉完了の姿については、政府も東電もいずれも全体像を描けていないことがわかりました。そこで要請団からは「廃炉の全体像を示
すこともできずにALPS処理水の海洋放出方針を決めても国民は何一つ判断してみようが無いのだから、廃炉の全体像を国民が理解
できる表現で示すべきだと追及しました。以上が、30日の要請行動の様子でした。



3. 最後に私なりの論点整理についてです。
結論としては、①まず2015年の県漁連との約束を守り、ALPS処理水は放射能の自然減衰効果も計算しつつタンクに保管し続けることが大切と思います。②第一
原発の廃炉をどのように進めていくのかという全体像つまり、実現可能な廃炉工程と廃炉完了の時期と廃炉完了の姿を漁業関係者はもとよりすべての国民に、わ
かりやすい方法で示して意見を求める必要があると思います。「廃炉完了の姿は住民が心配しなくてよい状態」などという抽象的な表現しかできないままにしてお
けば問題は深刻化する一方だと思います。福島の復興を口実にして乱暴な廃炉の進め方を許してはいけないと思います。



2022/4/6福島民報

報告の結びに

ご存じの方も多いかと思いますが、4月6日の福島民報新聞1面に、以下の記事が掲載されました。

”政府「理解なしに処分せず」” 処理水放出で全漁連と会談 姿勢改めて伝達”

3月30日の私たちの大量の署名を携えた要請行動がマスコミ報道を通して周知され大きな世論があることを政府と東電の認識に影
響したと感じています。集会ご参加のみなさん、私たちの署名行動は大きな力を発揮していると思います。引き続き皆さんのお力添
えをよろしく願って、私の報告を終わります。



<編集後記>erikoのつぶやき

お花見に出かけた公園で鉄棒が目に入り、10年ぶりの逆上がりチャレンジ。
自分の中ではひょいっと回れるイメージが、意に反してお尻が全然持ち上が
らない。まさかの逆上がりができなくなっていました。かつて、出来ない人
を見て「なんでできないの!?!」と不思議に思っていた姿が正に今の自分。人はい
つから逆上がりができなくなるのか...。傷ついた心に更に追い打ちをかける
両腕の痛み。当日からすでに二の腕がパンパン! 筋肉痛を超えるレベルの
痛みと重みにエアサロソロンパス出動です。幻想的な桜の美しさよりも、昔の
自分はもういない現実が勝った2022年のお花見でした。

<情報・お問い合わせ先>

みやぎ生協・コープふくしま ふくしま県本部内
「アルプス(ALPS)処理水海洋放出に反対する署名」推進事務局
〒960-8566 福島県福島市森合字清水7番地 コープふくしま いずみ店2F
TEL024-557-1181 FAX557-5359 * mail :sn.f10243sn@todock.coop (根本)

